

# エコアクション21

## 環境経営レポート

(対象期間) 令和6年1月～令和6年12月\_令和6年度版



株式会社ツカサ精密

作成日：令和7年4月9日

## 目次

	頁
目次	1
1、事業概要	2
2、組織図	3
3、環境経営方針	4
4、環境経営目標	5
5、環境経営活動計画	6
6、環境経営活動計画の取り組み結果	7
7、環境経営活動計画の取り組み結果・次年度の取り組み内容	8
8、環境経営関連法規の取りまとめ	9
9、緊急事態の想定訓練	10
10、勉強会及び改善活動	11
11、電気使用量の測定結果（昨年度との比較）	12
12、環境経営関連法規への違反・訴訟等の有無	13
13、代表者による全体の評価と見直しの記録	14

# 1、事業概要

## 1-1 経営理念

3つのことに良い会社をつくろう

- 1、社員にとって良い会社をつくろう
- 2、お客様にとって良い会社をつくろう
- 3、地域社会にとって良い会社をつくろう

## 2-2 会社概要

- 1) 社名 株式会社ツカサ精密
- 2) 創業 1984年(昭和59年)2月
- 3) 所在地 本社・本社工場：〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町3270-1  
第2工場：〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町3277-20
- 4) 代表者 代表取締役 渡邊 清司
- 5) 資本金 1,000万円
- 6) 従業員数 36名
- 7) 敷地面積 本社工場：1,857㎡ 第2工場：903㎡
  
- 8) 環境管理責任者及び連絡先 辻 匡史  
TEL:028-674-4189 FAX:028-674-4290  
E-Mail tuzi@your-tukasa.co.jp  
URL <http://www.your-tukasa.co.jp>
  
- 9) 主な事業内容  
あらゆる産業機械(精密測定機器・高度医療機器・産業ロボット・  
半導体製造機器・福祉健康機器・監視カメラ)に使用される精密板金の設計・製造

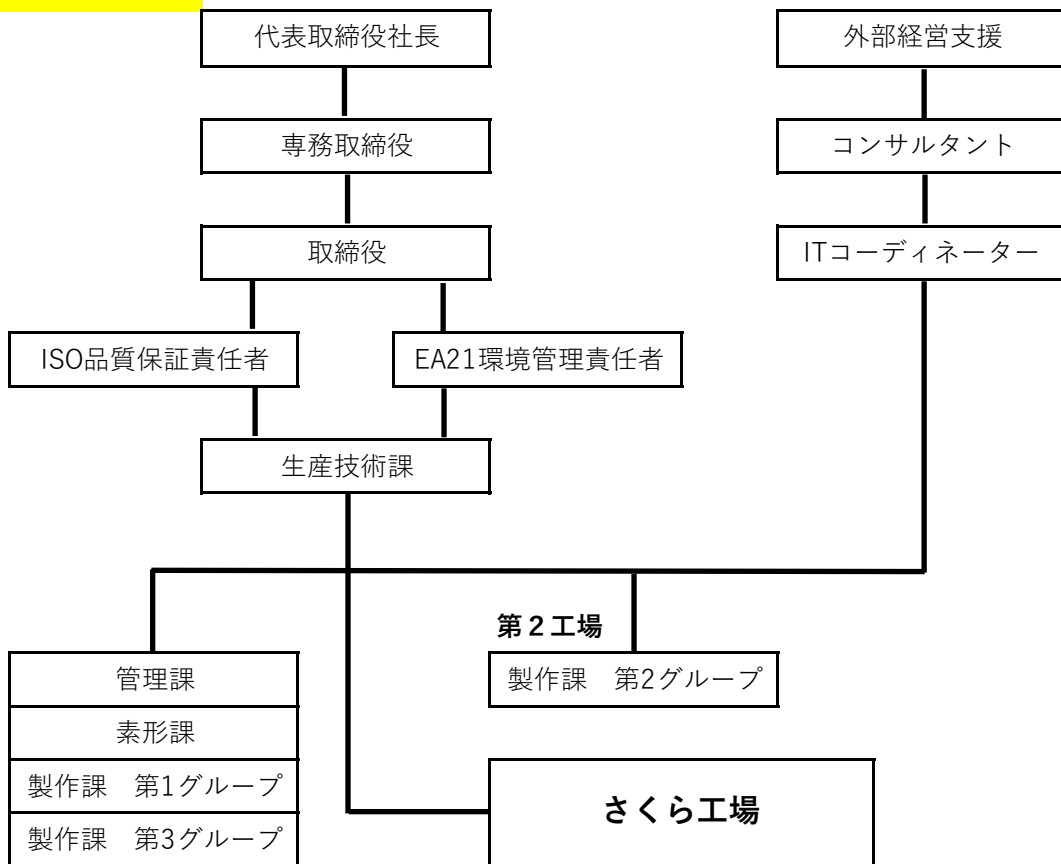
## 1-3 認証・登録範囲

対象事業所 本社・本社工場：栃木県宇都宮市芦沼町3270-1  
第2工場：栃木県宇都宮市芦沼町3277-20

### 事業活動

金属・加工金属製品等の製造業(産業機械に使用される板金部品の設計・製作)、  
自社開発金属製品アクセサリの製造・販売

## 2、組織図



社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境管理責任者を任命する。</li> <li>・ 環境方針を制定する。</li> <li>・ 推進に必要な要因、技術、資金等を準備する</li> <li>・ 環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する。</li> <li>・ 環境経営システム全体の評価と見直しを行う。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する。</li> <li>・ 環境への負荷及び取り組みの自己チェックの実施リーダー</li> <li>・ 環境目標及び活動計画の達成状況の確認を行い、社長に報告する。</li> <li>・ 環境関連法規の取りまとめ、最新チェック及び順守状況を確認する。</li> <li>・ 外部からの苦情や要望を受ける窓口</li> <li>・ 文書、記録を管理する。</li> <li>・ 代表者による全体の評価と見直しのための情報を報告する。</li> </ul>
部門リーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門ごとに活動計画を策定し、達成状況を把握して環境管理責任者に報告する。</li> <li>・ 部門ごとの教育訓練の実施リーダー</li> </ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動計画の担当者として実行する。</li> <li>・ システムで定めたルール及び取り組み事項を自発的、積極的に実施する。</li> </ul>

### 3、環境経営方針

## 環境経営方針

- 1、地球の環境を守るために、自らの活動を実施し寄与します。
- 2、クリーンな作業環境を維持し満足と秩序ある職場をつくります。
- 3、良い環境・良い人間・良い仕事を通して会社の発展に貢献します。
- 4、事業を推進するにあたり、関連する法規等を遵守します。
- 5、環境方針は、社員教育や事業活動を通じて全社員に周知します。

## 重点項目

- 1、エネルギー使用量の削減により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2、廃棄物の削減・リサイクルに努めます。
- 3、節水活動に努めます。
- 4、化学物質の管理に努めます。
- 5、グリーン購入を推進します。
- 6、当社が販売・提供する優しい製品およびサービスの環境負荷の低減に努めます。

制定日：2012年1月25日

会社名：株式会社ツカサ精密

代表者：渡邊清司

## 4、環境経営目標

目標項目	年度			基準 (BM)年度 令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
				100%	99%	98%	97%
1、二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量 全社 (本社工場+第2工場)	Kg-CO2	基準値 (BM)目標	233,377	231,043	228,709	226,376
			売上対比目標	-	272,030	255,698	249,014
	電気使用量全社 全社 (本社工場+第2工場)	Kwh	基準値 (BM)目標	484,909	480,060	475,211	470,362
			売上対比目標	-	565,222	531,286	517,398
	ガソリン使用量	ℓ	現在ガソリン車の使用実績がありません。				
	軽油使用量	ℓ	基準値 (BM)目標	4,563	4,518	4,472	4,426
売上対比目標			-	5,320	5,000	4,869	
2、廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	Kg	基準値 (BM)目標	1,560	1,544	1,529	1,513
			売上対比目標	-	1,818	1,710	1,664
	産業廃棄物 (廃油)	ℓ	排出量が少ないため実績管理				
	産業廃棄物 (廃プラ・他)	Kg	排出量が少ないため実績管理				
	リサイクル (金属クズ)	Kg	基準値 (BM)目標	96,501	95,536	94,571	93,606
売上対比目標			-	112,484	105,730	102,967	
3、水使用量の削減	節水活動 適正管理	-	数値目標は持たず使用量の把握をして適正管理に努める。				
4、化学物質の削減	化学物質 維持管理	-	SDS,保管場所の整理整頓				
5、グリーン購入	購入品の検討	-	随時検討して購入				
6、提供する製品づくり	客先不良の削減	件	36件/年	36件/年	15件/半期	15件/半期	

東京電力2023年度CO2排出係数を使用 0.457

## 5、環境経営活動計画

	項目	実施項目	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月												担当者	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
二酸化炭素排出量の削減	空調温度適正化 表示確認	適切な温度管理 夏場：冷房26度 冬場：暖房24度	→												各GL	
	照明・PC電源不要時の電源Off	こまめな消灯 事務機器の節電 (LED化 98%)	→												管理課	
	空調清掃の実施	年2回の一斉清掃の実施	→									→				全社員
	エコドライブの推進	アイドリングストップ 急発進の制御 エコモード運転	→												第3G	
	配送ルートの再検討	毎日の配送ルートの適正化 カーボンニュートラル配送 を使用(宅配)	→												第3G	
廃棄物の削減	焼却ゴミ置場の整理・整頓	整理・整頓	→												全社員	
	ダンボール箱の再利用	使用したダンボールを 再利用 (宅配用も含む)	→												全社員	
	リサイクル金属くずの削減	①製品歩留まりの改善 (ネスティング) ②製品不良の低減	→												素形課 全社員	
水資源の削減	節水	表示をして注意を促す	→												全社員	
適正物質管理の	①保管場所の整備 ②SDSの入手 ③化学物質維持管理 ④アルゴンガスの適正管理	①保管場所の整理整頓 ②最新のSDSを入手 ③脱脂洗浄液の管理 3-1 使用量の把握 3-2 環境に配慮した洗浄液の検討 ④ガス圧力調整器を使用	①	→											関係者	
			②	→												
			③	→												
			④	→												
グリーン購入	対象品目の比率向上	購入時、検討してから購入	→												管理課	
提供する製品について	客先不良の削減	是正・予防に努める	→												全社員	
自社商品について		①「BLB」ブランド運営	①	→											関係者	
		②「BLB PONTA」の運営	②	→												
社会貢献について		・宇都宮ブリッツェン ・宇都宮村上塾 スポンサード	→												関係者	

## 6、環境経営活動計画の取り組み結果

項目			令和3年度 基準年度	令和6年度				取り組み結果 の評価	次年度の計画
				対象期間（令和6年1月～12月）					
				（目標）		実績			
				基準値（BM）目標 売上げ/対比目標	令和6年 度実績	%	達成 状況		
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 （会社全体）	Kg-CO2	233,377	226,376	249,529	99.8	未達成	電気使用量及び二酸化炭素排出量の結果が未達成ではあるが、ほぼ目標に達成している。第2工場の目標達成状況の割合が落ちているため未達成になってしまった。	次年度もこの状態を維持しつつ目標達成ができるように品質・改善活動を重点的に行いたい。
				249,014					
	電気使用量	Kwh	484,909	470,362	519,680	99.6	未達成		
				517,398					
ガソリン使用量	ℓ	-	-	-	-	-			
			-						
軽油使用量	ℓ	4,563	4,426	4,459	109	達成			
			4,869						
廃棄物排出量	一般廃棄物	Kg	1,560	1,513	1,370	121	達成	廃棄物排出量は目標達成している。廃油に関しては脱脂の前工程処理を行うことにより交換サイクルを減らしている。	次年度も適正管理を行い目標達成に向けて活動していく。
	産業廃棄物 （廃油）	排出量が少ないため実績管理							
	産業廃棄物 （廃プラ・他）	排出量が少ないため実績管理							
金属材料のリサイクル	リサイクル金属	Kg	96,501	93,606 102,967	89,724	115	達成		継続
水使用量	節水活動の継続				節水活動				継続
化学物質	①新たに購入・変更した場合はSDSを入手する				①SDSを入手し管理している				継続
	②保管場所の整理・整頓				②環境整備の日に実施				継続
	③交換サイクルの見直し				③随時、見直しを実施				継続
グリーン購入	購入実績				随時検討				継続
提供する製品	客先不良数	件数	30	30	37	-	未達成		継続



## 7、環境経営活動の取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容

### 1、二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量・電気使用量の目標は未達成だが、ほぼ達成できている。  
電気使用量は第2工場が少し目標から外れた。原因はさくら工場増設に伴う在庫の増加で溶接作業が増えた事が考えられる。  
そのため残業時間も増加したために目標達成ができなかった。  
次年度は品質・改善活動を重点的に行い目標達成に努めたい。

### 2、廃棄物の削減

脱脂の前工程行う事で脱脂液の交換サイクルを減らすことができた。  
次年度も適正管理のもと作業を行う。  
本社工場の脱脂液は交換サイクルの見直しを行なった。

### 3、水資源投入量の管理

節水活動を引き続き行う

### 4、化学物質使用量の管理

保管場所の維持管理（整理・整頓）を引き続き実施していく

### 5、グリーン購入比率の向上

グリーン購入を引き続き行なっていく

### 6、提供する製品について

不良品の低減により電気使用量を減らすことができるので  
次年度は不良対策の方法を変更し不良撲滅を実施していく

### 7、環境改善

さくら工場稼働により人員の移動・役割変更があるので  
変更後にどの様な環境改善活動ができるか次年度は  
現状確認の年となる

## 8、環境経営関連法規の取りまとめ

主な適用法規		対象の 施設・設備・業務等	要求事項	遵守状況 3月	遵守状況 9月
1	廃棄物処理法	一般廃棄物 紙くず、生活ゴミなど	宇都宮市の一般廃棄物委託基準		
		産業廃棄物 廃油・廃プラ・木くず など	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託基準、産業廃棄物運搬</li> <li>処理業者の許可書確認と契約書</li> </ul> マニフェストの管理と産業廃棄物管理表交付状況報告書		
2	高圧ガス保守法	高圧ガス貯蔵	貯蔵タンクの保守点検		
3	消防法	火災報知器、消火器	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災報知器の設備と定期点検</li> <li>消火器の点検</li> </ul>		
4	フロン排出 制御法	エアークOMPRESSOR エアドライヤー チリングユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理する第一種特定製品の設置環境・使用環境の維持保全</li> <li>簡易点検・定期点検</li> <li>漏えいや故障等が確認された場合の修理を行うまでのフロン類の充填の原則禁止</li> <li>点検・整備の記録作成・保存</li> </ul>		
5	PRTR法	脱脂液の貯蔵	<ul style="list-style-type: none"> <li>量の把握</li> <li>該当する場合は、排出量・移動量の報告</li> <li>MSDSの提供と周知</li> </ul>		
6	電気事業法	野外キューピクルス (自家用変電設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気工作物月次点検報告書</li> <li>自家用電気工作物試験成績書（年次）</li> </ul>		
7	騒音規制法	コンプレッサー	定格出力7.5 Kwの届出（設置時）		
8	振動規制法	コンプレッサー	定格出力7.5 Kwの届出（設置時）		
9	浄化槽法	浄化槽の設備	保守点検、清掃の実施		
10	リサイクル法	パソコンの設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>再資源の利用基準</li> <li>パソコンの廃棄時の適正な引き渡し</li> </ul>		

## 9、緊急事態の想定訓練

コロナの影響により緊急事態の想定訓練は実施しませんでした。

## 10、勉強会及び改善活動

今期は さくら工場増設があり、設備の移動・人員配置の変更等により勉強会及び改善活動の実施はありませんでした。

来期は目標を達成する計画をたて、それらをもとに勉強会及び改善活動を実施する予定

## 11-1、電気使用量の測定（本社工場）

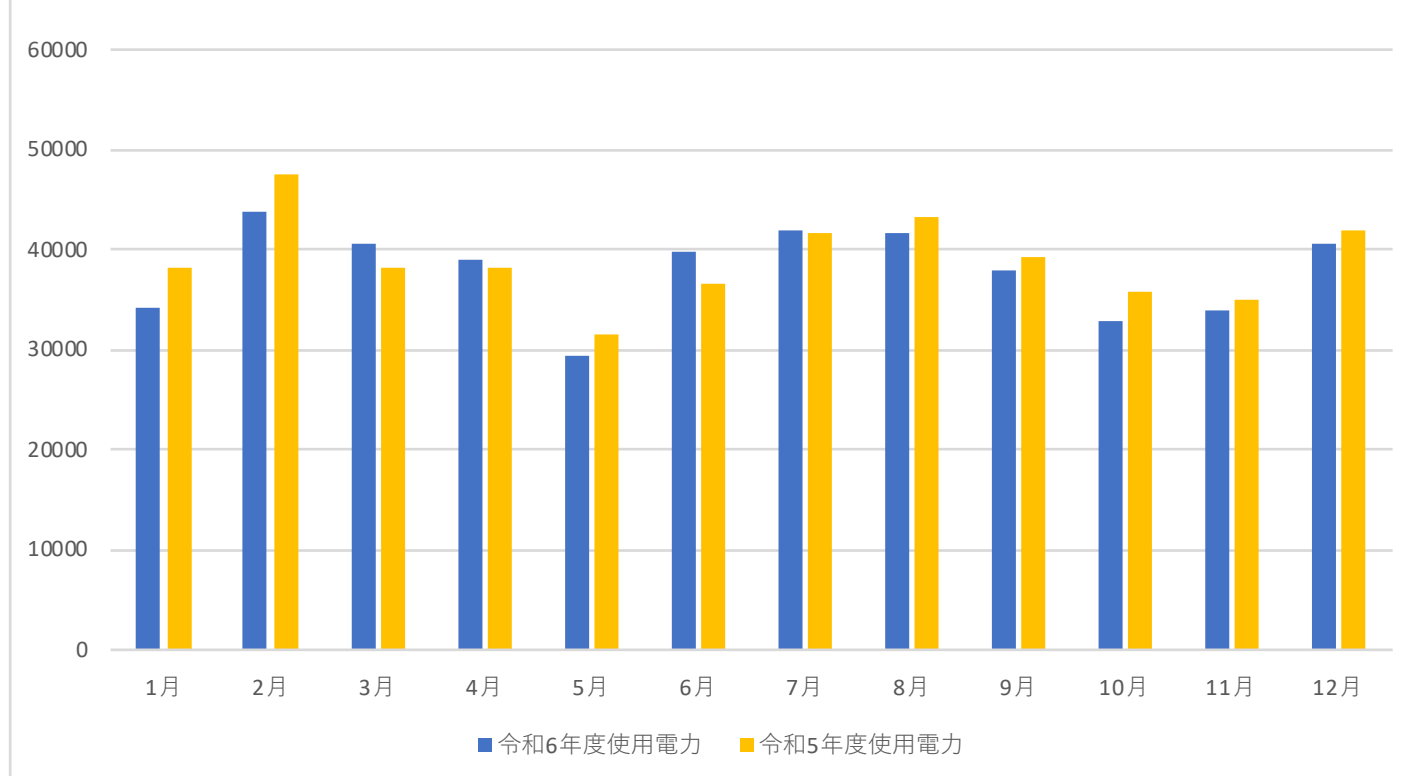
（本社工場：令和6年1月～12月）

令和6年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用電力 （統計）（Kw）	34155	43837	40480	38898	29459	39747	41960	41664	37940	32864	34032	40529
力率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大電力(Kw)	188	216	185	163	151	170	175	196	219	176	157	217

（本社工場：令和5年1月～12月）

令和5年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用電力 （統計）（Kw）	38231	47652	38248	38067	31416	36475	41787	43188	39324	35801	35067	41898
力率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大電力(Kw)	191	215	196	154	144	147	179	202	206	200	160	169

使用電力の比較（本社工場）



## 11-2、電気使用量の測定（第2工場）

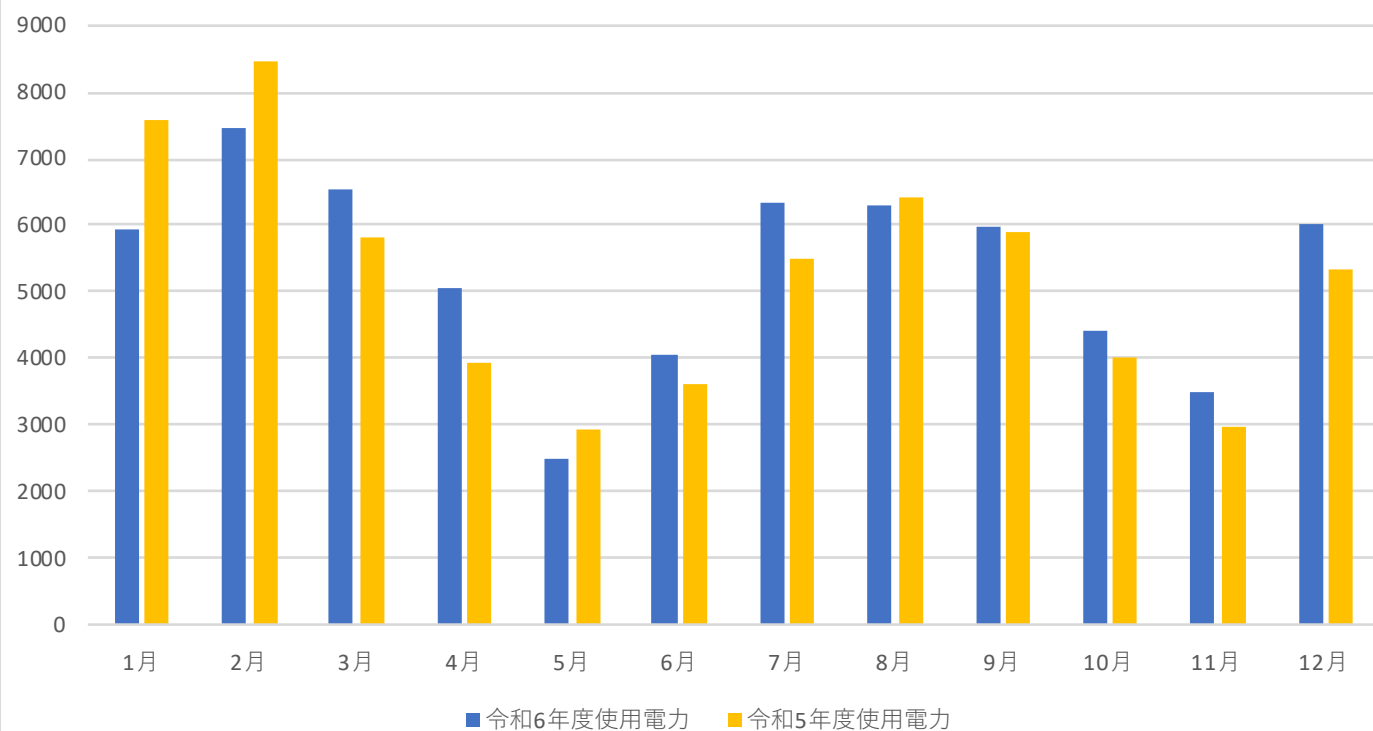
（第2工場：令和6年1月～12月）

令和6年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用電力 （統計）（Kw）	5948	7475	6533	5065	2482	4072	6352	6287	5969	4429	3474	6029
力率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大電力(Kw)	44	49	42	34	17	27	39	38	42	32	23	42

（第2工場：令和5年1月～12月）

令和5年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用電力 （統計）（Kw）	7589	8453	5822	3950	2919	3606	5498	6412	5910	3995	2988	5333
力率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最大電力(Kw)	48	48	52	35	28	24	37	43	44	31	30	35

使用電力の比較（第2工場）



## 1 2、環境経営関連法規への違反、訴訟等の有無

令和5年3月・9月に遵守状況の確認、評価を行なった結果

- ・環境関連法規との違反はありませんでした。

- ・訴訟等も過去3年間ありませんでした。

## 1 3、代表者による全体の評価と見直しの記録

EA21の活動に関して、生産の動向に比例して、大きく変化した内容がなく例年通りの環境に配慮した活動が継続してできていると判断している。

環境に配慮した活動の基本となる指標は電気の使用量がベースになる

電気の使用量＝全体の生産活動と考えたときに、効率の高い生産体制の構築が目標になる。

今期はさくら市に新たな生産拠点の作業生産開始で、新たな数値の結果を確認しながら、2事業所を合算して、環境に配慮した数値目標が定まる年度と考えている。